

## <きゅうり（施設栽培）>

- ・「おおさかアグリメール」で配信している、年間の主な作業を掲載しています。（気候条件等で前後することがあります。生育状況に応じて管理してください。）
- ・病害虫の発生は栽培ほ場の状況を良く観察し、毎月の病害虫発生情報は <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/index.html> を参照してください。
- ・防除薬剤は『大阪府農作物病害虫防除指針<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/body/mokuji.html>』を参照してください。

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
施設 (抑制)																			は種	接ぎ木	育苗管理	定植	かん水	整枝	かん水	摘心	病害虫防除	収穫	つる管理	追肥	病害虫防除	つる管理	摘心・摘葉	病害虫防除			
管理作業																			<p>【は種】</p> <p>▼穂木は定植予定の22-25日前、台木は穂木の2、3日後に種をまきます。</p> <p>▼は種後、穂木が本葉1枚、台木は本葉が見えかけた頃が呼び接ぎの適期です。</p> <p>▼苗の水分が多いと接ぎ木後の活着が悪いので、接ぎ木前はかん水を控えます。</p> <p>【接ぎ木】</p> <p>▼接ぎ木後1、2日は遮光し活着を促します。</p> <p>▼苗床では、アブラムシ類の発生に特に注意しましょう。</p>	<p>【定植】</p> <p>▼植え付け前に遮光ネットを張り、植える2、3日前にうね全体を十分湿らせてから植え付けます。</p> <p>▼植え付け時には害虫防除のため、薬剤を施します。</p> <p>▼活着後は根張りをよくするため、速やかに遮光ネットを外しましょう。</p> <p>【かん水】</p> <p>▼生育初期は株元を中心にチューブでかん水し、うね間かん水は避けましょう。</p> <p>【整枝】</p> <p>▼5-6節（約30cmの高さ）までに発生した子づるや幼果はすべて摘み取ります。</p> <p>▼古葉、病葉や混んでいる葉を摘み、採光と通風に努めましょう。</p> <p>▼主枝は目の高さで先端を摘みとると、作業性、収量性が高まります。</p>	<p>【かん水】</p> <p>▼かん水不足は曲がり果や尻細曲の原因になり、病気の発生を助長するので注意しましょう。また、うね間かん水は避けます。</p> <p>【摘心】</p> <p>▼摘心は子づる・勢いの強い孫づるの1、2節で先端を摘みます。伸びすぎた枝を大きく切り戻すと草勢が低下するので、先端部のみを摘み取ります。</p> <p>▼古葉・病葉や混んでいる葉を摘み、採光と通風に努めましょう。葉はハウス外に持ち出して処分します。</p> <p>【病害虫防除】</p> <p>▼アブラムシ類、ウリノメイガ、アザミウマ類、コナジラミ類、うどんこ病等の発生に注意しましょう。</p>	<p>【つる管理】</p> <p>▼子づるの誘引は無理に上部に引き上げず、少しわませながら弧を描くようなイメージで行うと、草勢をコントロールしやすくなります。</p> <p>【追肥】</p> <p>▼収量が増え株に負担がかかる頃なので、追肥の時期を逃さないようにしましょう。</p> <p>【病害虫防除】</p> <p>▼コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類、うどんこ病、べと病、褐斑病、菌核病の発生に注意しましょう。</p>	<p>【つる管理】</p> <p>▼栽培後半も収量の安定する品種は11月中旬まで摘心を行いますが、初期収量主体の品種は孫づるを放任します。</p> <p>【摘心・摘葉】</p> <p>▼草勢が低下し、側枝の発生が少なくなったら摘心を控え、古葉・病葉を中心にこまめに取り除きましょう。</p> <p>▼ネットの上部でつるが混み合ってきたら、切らずにつるの先端を下向きにします。</p> <p>【病害虫防除】</p> <p>▼灰色かび病や菌核病の発生に注意しましょう。</p>														